

第 6 2 回 企画展

養蚕と自給の製糸用具



平成26年10月4日～12月26日

岩手県立農業ふれあい公園

農業科学博物館

昔は、蚕を飼って繭を取り絹を生産する産業が経済的にとても重要で、明治維新以降の近代化や第二次大戦後の経済復興にも大きな貢献をしてきました。

岩手県でも、大正8年には、42%(40,645戸)の農家で蚕を飼い、農家の経済面にも大事な位置を占めていました。

そして、多くの養蚕農家は売れ残りのくず繭で糸や真綿をつくり、それに縫りをかけて機織りで自家製の布を作り、暮らしを営んでいた歴史がありました。

しかし近年、化学繊維の発展や外国産の安い生糸が輸入され、国内の生産は大幅に減少し、手製の絹製品をつくる機会もなくなりました。

この企画展では、養蚕の歴史と、明治から昭和中期頃まで、農家が生業で蚕を育てて繭を取るため、飼養に用いた用具類と飼養法を学び、取れた繭の売るため手入れや、くず繭を真綿や糸にする製糸用具類と絹製品を紹介し、自給の絹製品を作った学習の場を提供します。



座繰機



糸車



まぶし

岩手県立農業ふれあい公園

農業科学博物館

北上市飯豊 3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間／9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)

入館料／一般300円 学生140円 高校生以下は無料

団体割引等(20名以上)あります

駐車場／大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台